

---

# 大人のための異文童話集2 ガラスの靴

天野久遠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大人のための異文童話集2 ガラスの靴

### 【Nコード】

N9540L

### 【作者名】

天野久遠

### 【あらすじ】

遠く離れた恋しき二人のほんのひとときのお話です。シンデレラが残したガラスの靴とは、形あるものだけとは限らないのかも…。

寒い冬の出来事でした。

今日の夜は二人にとって束の間の時間、それはただ一度だけとなる、舞踏会ならぬコンサート。

約束の場所へ着くと、まだ少し雪が舞っていたけれど、すぐに雪降らず雲は旅立った。

その後に見えた夜空には、澄んだ紺青に、小さく煌めく星々が姿を見せていた。

コンサートの場所。

お互いによく知らなくて、冷えてしまった互いの手を結んで少し歩き探し回る。

寒空もこうして歩けば、また、風情あるものと言えようか。

変わった形の交番で訪ねれば、そのすぐ側がコンサートの会場。そんな…少し間の抜けた世間知らずな二人がまたいい。

ディナーを取りながらの小さなコンサート。

予約の際に遠方から参加と知っての気遣いで、演奏に近い席をリザーブしてくれる優しさが温かい。

若い者はそれほどいる様子も無く、昔ながらのファン達で静かに盛り上がる。

テーブルの下で結んだ手と手も暖かい。

その場を離れるとまた、別々になる二人。

その歌のように、一緒に朝を迎えることなど考えられない二人。

許されるこの時間の中にだけ、互いに結んだ手の温かさを記憶に留めていく。

これといって特別な会話などもなく、心にしみてくる温かさを感じつつ歌を聴く。

コンサートと同じように、食事も終われば限りある時間もやってくる。

ともに過ごした時間、その名残惜さを抱きつつ帰途に付く。

泊まるホテルには私だけ。

くちびるに残った柔らかさが、寝づらい気持ちに拍車をかけた。

馴染みのようで馴染みでない……彼地のホテルで外に見える灯りが揺らいでいた。

指で触れては確かめる。

この唇の感覚はあなたが残したガラスの靴。

あなたを送った後、タクシーの中で運転手と交わした会話が、妙に心地よく蘇る。

「素敵なお嬢さんですね。」

その言葉が私には、今日、一番の喜びだったようにも思える。

寒さの中で、いつまでも手を振るあなた。

バックミラーに映っていたそんなあなたはも、もう居ない。

ほんのひとときと言え、今までに見たことのないあなたを知った胸の高鳴りなのか。

その顔に、その姿に、想い酔いしれもう一度、ガラスの靴に触れてみる。

脳裏を彷徨うのは、コンサートで聴いたあの歌のフレーズ。

ある寒い冬の日のお話。

それは魔法使いがくれた特別な時間と、シンデレラが残したガラスの靴のお話。

（後書き）

BGMには下田逸郎の“夢のまんなか”でも聴いて欲しいですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9540/>

---

大人のための異文童話集2 ガラスの靴

2010年10月15日01時09分発行